実施	平成28年度

事務事業事後評価表

≪基本情報≫

事務事業の名称【1】	乳幼児健康診査事業	所管課【2】	保健予防課
		評価者(担当者)	徳永　美穂
総合計画での位置付け【3】	基本目標(章)	⑤いきいきと暮らせる福祉のまちづくり	重点施策【4】
	主要施策(節)	(2)保健活動の推進	□該当
	施策区分	(1)保健活動の推進	
	(市民意識調査結果)	□【A】重点改善領域　☑【B】重点維持領域　□【C】観察領域　□【D】維持領域	
実施の根拠(複数回答可)【5】	□市長公約　□新市建設計画【　年度予定　:　金額　千円】 ☑法令、県･市条例等【 母子保健法、次世代育成支援対策推進法 】 ☑その他の計画【 玉名市次世代育成支援行動計画(後期計画) 】　□該当なし		
事業区分【6】	□ソフト事業　☑義務的事業　□建設･整備事業　□施設の維持管理事業 □内部管理事務　□計画等の策定事務		
会計区分【7】	☑一般会計　□特別･企業会計【　】	款 4	項 1 目 3 細目 2

≪事務事業の目的≫

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか)【8】	乳幼児の身体発育及び精神発達の確認、病気の早期発見の他、育児に関する様々な相談に応じ、子どもを健やかに育てる環境を整備するため。
対象(誰、何に対して)【9】	4か月児、8か月児、1歳8か月児、3歳6か月児とその保護者
意図(どのような状態にしたいのか)【10】	健康診査を開催し、保健指導及び個別相談を実施し、保護者が安心して子育てができるように支援して、乳幼児が健やかに発育･発達できるようにする。

≪事務事業の概要≫

事業期間【11】	□単年度のみ【　年度】　☑単年度繰返し【 H17 年度から】　□期間限定複数年度【　年度～　年度まで】	
事業主体【12】	□国　□県　☑市　□民間　□その他【　】	
実施方法【13】	☑直営　□全部委託　□一部委託　□補助金等交付　□その他【　】	
事務事業の具体的内容【14】	節目の月齢、年齢において健康診査を実施し、個別相談及び保健指導をおこない、乳幼児が健やかに発育発達し、保護者が安心して子育てができるように支援する。	⇒ 事務事業を構成する細事業【15】 ① 乳児(4か月児、8か月児)健康診査事業 ② 幼児(1歳8か月児、3歳6か月児)健康診査事業 ③ ④ ⑤

≪事務事業実施に係るコスト≫

			H25年度決算	H26年度決算	H27年度決算	H28年度予算	全体計画
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金　%					
		県支出金　%					
		起債　%					
		受益者負担					
		その他					
		一般財源	10,101	10,284	10,239	10,365	
		【16】小　計	10,101	10,284	10,239	10,365	0
		[再掲]臨時･非常勤職員人件費(千円)	3,668	3,272	3,142	1,185	
	職員の人件費	職員人工数	3.22	2.89	2.49	2.49	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,424	5,761	5,761	5,761	
		【17】小　計	17,465	16,649	14,345	14,345	
合　計			27,566	26,933	24,584	24,710	

≪事務事業の手段と活動指標≫【18】

事務事業を構成する細事業		手段（細事業の具体的内容）	活動指標	単位	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画
①	乳児（4か月児、8か月児）健康診査事業	内科健診、歯科指導、栄養指導、保健指導、必要時に精密検査券発行	実施回数	回	46	38	44	45
②	幼児（1歳8か月児、3歳6か月児）健康診査事業	内科健診、歯科健診、歯科指導、栄養指導、保健指導、心理相談、必要時に精密検査券発行	実施回数	回	48	48	48	48
③								
④								
⑤								

≪事務事業の成果≫【19】

	成果指標（意図の数値化）	計算方法又は説明	単位	H25目標 / H25実績	H26目標 / H26実績	H27目標 / H27実績	H28目標
1	健診受診率	受診者数/対象者数	%	98.0 / 97.4	98.0 / 98.1	99.0 / 97.4	95.0
2							

≪事務事業の評価≫

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性〈判定〉	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	□問題あり □問題なし	
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	□問題あり □問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	□影響あり □影響なし	
有効性〈判定〉B	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	□達成 ☑未達成	低出生体重児等では、病院にて経過観察されており健診に来所されない場合や、仕事の都合上どうしても休めずに来所できない方がいる。そのため、これ以上の成果は期待できない。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	□余地あり ☑余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	☑十分 □不十分	
効率性〈判定〉B	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	□余地あり ☑余地なし	乳幼児健診にかかる職員の稼働量が大きいため、H27年度に開催会場の集約や，4か月児健診・8か月児健診の合同開催を行い、検討を進めてきた。参加者のアンケートの結果も踏まえながら、検討していく余地あり。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	□余地あり ☑余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	☑余地あり □余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	□余地あり ☑余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	□余地あり □余地なし	

≪今後の方向性と改善≫

今後の方向性【31】	□拡充して継続 □現状のまま継続 □縮小を検討 □休止・廃止を検討 ☑細事業の効率化【☑改善・見直し □民間活用 □他事業と統合 □廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	乳幼児健診は玉名会場と横島会場の2箇所会場で実施している。平成28年度も対象人数が少ない月は、横島会場においては4か月児健診と8か月児健診合同で実施する予定。合同で実施することによって、4か月児の親が、8か月児の様子をみて、発達や育児の見通しをつけることができる等内容の充実も期待できる。今後対象人数が減少する場合は1箇所での合同実施の検討も必要である。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

		評価責任者
評価責任者（課長）の所見【33】	子どもたちの健やかな成長のため、有効な手段と考える。最近では、発達障がい児や気になる子の発見ができ、スムーズな対応に繋げている。	竹村　昌記